

# 令和5年度足柄高等学校第2回学校運営協議会 会議概要

令和5年11月6日(月)  
足柄高等学校 会議室

## 令和5年度の学校経営における課題について(校長)

- 本校の「総合的な探究の時間」及びカリキュラムの検討について  
本校の進学想定に関しては、最終的には生徒の希望通りの進学を目標にしていく。  
生徒に対しては、毎日の学習の習慣づけをサポートしたり、課題解決型学習を積極的に授業に取り入れたりするなどの取り組みを行っていく。
- 生徒がPCを使用する授業研究の推進について  
生徒がPCを使い、自ら情報を収集する力を身に付けさせたい。  
スマートフォンも良いが、PCを積極的に使わせたいと考えている。
- 働き方改革に向けた縮減できる業務の検討について  
次年度より、「サポート担任」制を取り入れる。業務分担が曖昧であったため、正担任の業務内容と明確に分けて把握したうえでやっていく。
- 50周年行事の一環とした制服の見直しについて  
見直しありきではなく、あくまで見直すべきところがあれば取り組んでいく方針である。

## 令和5年度学校評価について(校長)

- 教育課程・学習指導について  
スタディサプリを活用してきた。昨年と比較し、非常に大幅な学習時間の増加がみられた。
- 生徒指導・支援について  
「かながわ子どもサポートドック」を実施し、個々の生徒の実態に合わせた支援を行うことができた。  
部活動に関しては、中学生向けの部活動体験・見学daysなど、部活動の活性化に向けた取り組みを行うことができた。
- 進路指導・支援について  
指定校推薦で、年内に試験を終えてしまう生徒が比較的多い。1年生からの計画的なキャリア教育が必要と考えている。  
特別募集生徒に関しては、引き続き企業でのインターンシップ等を丁寧に行っていきたい。
- 地域等との協働について  
自治会や市と連携し、避難所開設訓練を実施することができた。また、ウェブページや公式Xを活用した情報発信も積極的に行うことができた。
- 学校管理・学校運営について  
不祥事・事故防止のための研修や注意喚起等を定期的に行うことができた。

## 令和5年度魅力と特色づくり検討会議活動報告について(教頭)

- 昨年度までの流れ、及び会の目的について  
本校公式Xをより活用する、というところから出発した。  
本校の魅力・特色を再検討するとともに、外部への情報発信方法を工夫して入学志願者を増やすこと、そして「業務改善」の具体的な検討と実現を目的としている。
- 魅力・特色再検討について  
今年は足高祭の開催前に、Xを使ってカウントダウンを行った。閲覧数は4,234件を記録しており、効果があ

ったと考えている。

#### 当日の授業見学について（○：委員 ●：学校）

- 生徒同士で交流を図ったり、ICTを取り入れている点が非常に良いと感じた。
- 英語科目において、生徒が英語に耳で慣れることが大切だと感じた。教員側も積極的に英語を使うべきだと思う。
- 体育の持久走については、安全がしっかりと確保されていると感じた。距離を分かりやすくするために、マーク等があると良いのではないかと感じた。生徒が走るコースの除草など、地域との協力も必要である。
- 得意な生徒・苦手な生徒それぞれに合わせた授業づくりを行ってほしい。
- マークは現在つけていない。教員が逆走して生徒の体調などをチェックしている。
- 環境はとても良いと感じた。マークはやはりあった方が良く考えている。
- 中学校においても、現在「アウトプット」を重視している。高校でも重視するべきだと感じた。例えば、英語においては「話す」ことで「書く」力を身に付けさせるのが有効ではないか。
- ペア学習等を積極的に行っているのが印象に残った。
- アクティブラーニングにも生徒が積極的に取り組んでいた。日頃から授業でアクティブラーニングを行っていることの現れではないかと考える。また、ICTにも生徒は慣れている様子であった。
- タブレットに加え、スマートフォンと使い分けさせていることに驚いた。中学校では基本的にスマートフォンは使わせない方針である。
- ICTを活用した授業づくりにおいては、教材づくりにとても苦勞すると思う。本校では、教員同士で集まって教材づくりに関する情報交換を行っている。足柄高校では、そのような情報交換や研修は行っているのか。
- 英語科では、それぞれが作った教材をドライブを通して共有している。
- ICTを使った授業に関する研修を1度、情報交換会のような形式で行っている。

#### 協議 令和5年度学校評価報告書中間報告

##### ・教務グループ（大野教諭）

授業改善に向けて、学校全体で授業見学週間を新設して実施した。

スタディサプリについては、昨年度は2学期以降の取り組みが鈍化していた。今年度は鈍化しないよう、より積極的に配信や声かけを行っていく。

##### ・生徒支援グループ（長屋総括教諭）

「かながわ子どもサポートドック」によって、自分からはなかなか言い出せない生徒を割り出し、面談を行うことができた。

交通安全については、スケアードストレイトを実施して、生徒に交通安全の大切さを「見て」学んでもらった。また、実施後のアンケートをHPに掲載した。自転車乗車時のヘルメット着用については、引き続き課題として取り組んでいく。

##### ・生徒会グループより（平安名教諭）

足高祭をはじめとした行事については、SNS等を活用して盛り上げることができた。今後も引き続き行っていきたい。

部活動に関しては、加入率が6割を切っている現状がある。今後加入率を上げていきたい。

##### ・進路グループより（石田教諭）

生徒が自分を知るための活動を行ったり、進路に関する説明会を1、2年生向けに行ったりしている。

特別募集生徒に対しては、インターンシップ等の支援を引き続き行っていく。

・情報管理グループより（高橋総括教諭）

部活動体験については、86人が来校した。課題として、業務量と開催時期の2点がある。見学のみに変えるなど、開催形態を検討している。

学校説明会にも多くの生徒・保護者が来校したが、2回目の説明会では来校者が少なかったように感じられた。今後もより生徒を主体として説明会等を行っていききたい。

・管理運営グループより（奥村総括教諭）

備蓄用品については、体育館に段ボールベッドを整備した。足高生が学校に留まる場合と、そこに地域住民が避難してくる場合を想定した。

避難所開設訓練は、市と自治体の情報交換の場にもなっている。ただその場合のお知らせ等は、市から行うべきであると考えている。

備品管理については、生徒全員分の鍵付きロッカーを順次確保していく。

・副校長より

行事の精査を進めている。特に陸上競技大会については、普段運動をしない生徒にとって厳しい面がある。ただ、生徒全体で体を動かす行事は残したいため、「体育的行事」を行う方向で検討している。

業務改善については、特定グループに偏っているものを各グループに分散させていく。

インクルーシブ教育についても、サポート担任制を取り入れるなど、全体で対応する方向で進めたい。

委員からのご意見

- スタディサプリについては、学習時間以外の要素からも効果を検証するべきである。
- 課題探求・解決型学習については、そもそも「何が課題か」が分からない生徒が比較的多い。そこを解決することが大切ではないか。
- 「かながわ子どもサポートドック」に関しては、自分から言い出せない生徒には良い取り組みだと感じた。ただ、対象にならなかった生徒の中にも、自分から言えない生徒がいるのではないか。
- 部活動は、全体として地域移行が進んでいる。また、受験やその後を見据えた基礎体力をつけるための部活動を行っている学校もあるため、検討しても良いのではないか。
- 特別募集生徒の進路に関しては、インターンシップだけでなく、大学紹介も積極的に行うべき。
- 地域等との協働については、引き続き積極的に情報を交換してほしい。
- 学校の安全管理については、バリアフリーチェック等を生徒と一緒に行って良いと考えた。
- 避難所開設訓練は、学校に任せきりの状態になってしまっている。自治会からも市と密に連絡をとっていく。
- 「かながわ子どもサポートドック」については、生徒が自分の気持ちを把握するためのものという側面もある。その側面もうまく活用してほしい。
- 進路に関して、同じく生徒が自分を知るためのものとしてキャリアパスポートがある。ぜひ小中学校とも連携して活用してほしい。
- キャリア教育支援に関しては、体験入学から本校に入ってきた後、ギャップに悩んで辞めてしまう生徒が見受けられる。そのため、教員と技術校との連携もより密に行うべきであると感じた。例えば、教員側が技術校での研修に参加する等の取り組みが考えられるのではないか。
- 学校管理については、外部からのイメージもあるため非常に大切である。引き続き行ってほしい。
- 本校から足柄高校に進学する生徒は多い。本校では生徒が担う行事を大切にしているため、そのような行事は残してほしい。行事を削減することも必要だが、生徒を主体とした行事は大切だと考えている。
- 部活動に関しては、地域に移行することも大切だが、生徒の受験時など進路のことを考えると、部活動も大事な要素であると考えている。

- 授業研究の方法については、年間で生徒からの評価が高かった授業を実際に行ってもらおう、という形もある。
- サポートドックについては、UPIという心理テストを大学では行っている。高校では難しいかもしれないが、そういったものを取り入れても良いのではないか。
- 学校内での話し合いは、今後も積極的に行ってほしい。
- 総合的な探究の時間については、担任に一任するのではなく、学年全体で行っていくべきである。

#### 閉会（校長）

学校教育計画（資料3）については、スクールミッションはそのままに、他の箇所を変えていく。第3回で完成形を示したいと考えている。